日本大學農獣醫學部校友會々報

発行所
日本大学獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京産工KK

日本大学 創立100周年記念にむけて

全学を挙げて推進
記念事業に理解と協力を

日本大学は三年後の昭和六十四年に創立百周年を迎える。この記念事業を成功させるために、本学記念事業委員会と協賛会の合同会同が七月十二日、法学部本館大講堂で開催され、学内外から六百名が参集した。

この日、事業委員会側から高梨公之会長、柴田勝治委員長、協賛会側からは江崎真澄会長（衆議院議員）、桑野章（前参議院議員）の両顧問らが出席した。

まず高梨事業委員会会長は「本学は創立いらい苦難の連続だったが、本邦最大の大学に発展した。これは先人の努力に負うところが大きい。今後は質の向上に努めたい。百周年事業は全学を挙げて推進する。すでに事業計画の一環として、情報センター開設などの準備を進めている」と、計画の進展を明らかにした。

協賛会の江崎会長は「本学が名実ともに、質の高い日本一の大学をめざしていることに共感している。百周年を節目に、その基礎を固めたい。そのために皆様のご協力を賜りたい」と挨拶があった。

続いて柴田事業委員会委員長は審議の結果、二面掲載のとおり満場一致で承認された。

第四号議案は特別記念事業について審議され、明年の二月に完成予定の学部講堂兼体育館の竣工を祝して、学部校友会より記念品を贈呈することが決議された。

以上をもって昭和六十一年度総会を終了した。

さらに、同ホテルの「コンコード」に会場を移し、木村庶務担当の司会により、懇親会が開催された。はじめに佐藤会長より参会者に対しておれの挨拶があった。

続いてご来賓として日本大学副理事長・農獣医学部長の久木田賢志先生、日本大学農獣医学部を代表され、日本大学副総長でもある農獣医学部長の久木田賢志先生よりご祝辞と大学および学部の現況と今後の方針について、ご報告と抱負が述べられた。

また同じくご来賓として日本大学校友会本部事務局長久恒真佐夫様よりご祝辞をいただいた。

引き続き農獣医学部次長の丸尾文治先生による乾杯のご発声で宴会に移った。

校友の中には大阪をはじめ遠方より馳せ参じられた方も多く、ご来賓、学部教職員のご参会のもとでなごやかな歓談のひとときを過しした。

祝電披露ならびに終宴にあたり、元農獣医学部教授大村　収先生の万歳三唱に再会を託し、二十時散会を惜しみつつ　閉会　となった。

懇親会・開宴での乾杯

学部校友会 61年度 総会と懇親会

東京・新宿で盛大に開催
学部講堂兼体育館竣工祝し
記念品の贈呈など決まる

昭和六十一年度農獣医学部校友会総会が七月十二日（土）東京・新宿の京王プラザホテル「グレースルーム」において、校友諸兄百五十余名出席のもとに開催された。

総会は西鳥羽副会長を議長に選出し、議案審議に入った。

第一号議案は六十年度校友会の一般経過報告で石井事務局長より説明。①今春三月の卒業生に記念品（机上置時）を贈呈したこと②会報第三十八号を発行したこと③理事会・会報など各委員会の開催と状況④各分会の活動状況⑤部会・支部の現況⑥正会員数、準会員数の動向についての説明がなされた。

第二号議案は会計決算報告の件で、月瀬会計担当からの説明と山根監事からの監査報告を受けたのち、二面掲載の通り承認された。

続く第三号議案は会計予算案で石井事務局長から報告説明があり、二面掲載のとおり満場一致で承認された。

第四号議案は特別記念事業について審議され、明年の二月に完成予定の学部講堂兼体育館の竣工を祝して、学部校友会より記念品を贈呈することが決議された。

以上をもって昭和六十一年度総会を終了した。

さらに、同ホテルの「コンコード」に会場を移し、木村庶務担当の司会により、懇親会が開催された。はじめに佐藤会長より参会者に対しておれの挨拶があった。

続いてご来賓として日本大学副理事長・農獣医学部長の久木田賢志先生、日本大学農獣医学部を代表され、日本大学副総長でもある農獣医学部長の久木田賢志先生よりご祝辞と大学および学部の現況と今後の方針について、ご報告と抱負が述べられた。

また同じくご来賓として日本大学校友会本部事務局長久恒真佐夫様よりご祝辞をいただいた。

引き続き農獣医学部次長の丸尾文治先生による乾杯のご発声で宴会に移った。

校友の中には大阪をはじめ遠方より馳せ参じられた方も多く、ご来賓、学部教職員のご参会のもとでなごやかな歓談のひとときを過しした。

祝電披露ならびに終宴にあたり、元農獣医学部教授大村　収先生の万歳三唱に再会を託し、二十時散会を惜しみつつ　閉会　となった。

「記念式典と協賛会の開催、功労者の表彰、物故・校・教職員の慰霊祭、百年史の発行、学祖の墓所整備と顕彰碑の建設、学術講演、国際シンポジウムの開催、留学生のための奨学資金の設定、さらに記念事業の最大イベントである『国際記念館の建設』などの諸事業を成功させるために、皆様のご理解とご協力を賜りたい」と事業計画の報告と挨拶があった。

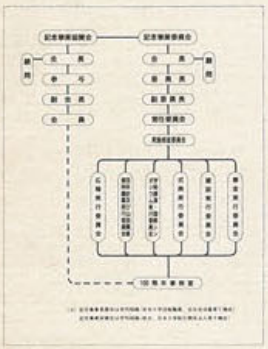
さらに協賛会の河本、桑野四顧門、校友代表の柳井清澄（プレス工業社長）各氏による挨拶があり、最後に校友の大内俊氏（山陽特殊製鋼会長）の音頭で万才三唱、日本大学百周年記念事業達成に向けて力強い第一歩を踏み出した。

また、記念事業広報実行委員会の久木田賢志委員長（副総長・農獣医学部長）は、創立百周年を機に六十万余を数える校友をはじめ一般の方々に対して「日本大学とは、どんな大学か？」を再視してもらうためにつぎの実施計画案を発表した。

①シンボルマークの制定　②日本大学学祖・山田顕義伯の生涯をつづる新聞小説の連載とテレビドラマ全国放映など　③創立百周年に関する記録映画の製作　④記念テレホンカードの発行　⑤校友住所録の調査と整備などである。

日本大学創立100周年
シンボルマーク

日本大学創立100周年記念事業推進組織図



目標額は百十五億円
活発な募金活動を展開

日本大学創立百周年記念事業第二回募金実行委員会（川崎勇委員長）が七月十八日（金）日本大学会館で開催され、募金目標額（内訳）などが協議された。

その結果、募金目標額・百十五億円、内訳は校友・十五億円、教職員・五億円、法人・二十億円。各部科校の募金計七十五億円。

募金の期間は昭和六十二年六月から昭和六十七年五月までの五年間、在学生の父兄、校友、大学関係者、校・教職員その他の賛同者に趣意書を配布し、任意の寄付を募集することとなった。

校友各位におかれましては、関係方面の協力要請があることと存じますが、何分のご協力をお願い致します。

農獣医学部事務局の就任と昇任

農獣医学部の事務局は小田中醇事務局長のもとに執行されているが、七月一日付で理工学部より渡辺　操事務長（勝沢校舎担当）が就任された。

なお、前勝沢校舎担当の新保節保事務長は三島学園事務局次長に、また小崎　明庶務課長は松戸歯学部経理長に、後任には松橋一三前教務課課長補佐がそれぞれ昇任転嗣となった。諸先生方のご活躍に期待する。

学祖・山田顕義伯の銅像と歴代総長などの胸像（日本大学会館）

農獣医学部校友会役員

農獣医学部長 名誉会長	久木田賢志	
会長	佐藤　弘一	（食経）
理事	鹿野　忠	（林学）
副会長	西鳥羽　曙	（農学）
理事	白山　巌	（畜産）
理事	宮浦　敏麿	（農学）
理事	坪木　良雄	（農学）
理事	茂沢　呆	（農化）
理事	江剌　琢磨	（農化）
理事	木嶋　弘倫	（農化）
理事	田中　延吉	（獣医）
理事	日比野次郎	（獣医）
理事	長尾　壮七	（獣医）
理事	佐藤　昌介	（畜産）
理事	長野　実	（畜産）
理事	三木　敏夫	（食経）
理事	高坂　鉄雄	（食経）
理事	上野　嘉昭	（林学）
理事	大川富士雄	（林学）
理事	杉浦　宏	（水産）
理事	添田　秀男	（水産）
理事	日野　演彦	（水産）
理事	一川　宏也	（農工）
理事	八木　茂	（農工）
理事	世良田和寛	（農工）
理事	野田　義人	（食工）
理事	中村　清一	（食工）
理事	青井　幸雄	（食工）
理事	庄川　洋一	（拓植）
理事	岡田　正男	（拓植）
理事	水野　包男	（拓植）
理事	冨澤　寿樹	（短農）
理事	山本　正義	（短農）
理事	斎藤　忠雄	（短農）
監事	山根　勝次	（食経）
監事	戸崎　紘一	（農工）
監事	坂野　忍	（食工）
事務局長	石井　賢治	（農学）
庶務	木村　貞司	（畜産）
庶務	本江　一郎	（林学）
会計	月瀬　東	（獣医）

学部講堂兼体育館の完成模型

2月に講堂兼体育館が

校友会特別記念事業委員会開く

記念品は緞帳に決まる

学部では、来年の二月に講堂兼体育館の建工が予定されている。この完成を祝して、学部校友会より記念品を贈呈するための特別記念事業委員会が七月二十八日(月)東京・原宿の南国酒家で開催された。

委員会は各分会会長により構成され、つぎの通り審議された。

記念品については、学部当局の要望もあり「緞帳」とする。これにともなう学部校友会からの支出額は五百万円とする。また、緞帳に刺しゅうする文字やデザインなどについては、委員会の趣旨を学部当局に具申する。

以上の事項が協議された後、当委員会を分会会長懇談会に切りかえて、つぎの二項が協議された。

一、年史の発行について

発行の趣旨にあたっては、各分会の会長会議により検討するが、実務的な進捗は各分会事務局長による委員会でおこなう。発行目標は昭和六十三年度とする。

二、創立四十周年記念事業について

昭和六十三年が校友会創立四十周年に相当するため、同年を目標に記念事業をおこなうための検討委員会(各分会一名)を発足し、検討する。委員の選出は九月三十日(火)まで学部校友会事務局あて連絡する旨、話し合いがなされた。

露木教授が受賞

共立講堂で授賞式

日本食品工業学会賞

露木英男教授(食品工学科)はこのたび「農水産物の脂質に関する食品化学的研究」の業績が認められ、昭和六十一年度日本食品工業学会賞の研究功績賞を受賞された。それにともない、四月十八日東京・共立講堂で開催された同学会の第三十三回大会で、その授賞式と受賞講演が行われた。ふかくお喜び申し上げます。

学部祭

東京と藤沢校舎で開催

今年の学部祭は、東京校舎(三茶祭)が十月二十五日(土)より二十七日(月)までの三日間と、藤沢校舎(藤桜祭)が十一月二日(日)、三日(月)の二日間開催されます。

統一テーマは「うごめく動物たちの創造」と決まり、学部祭実行委では盛り沢山の企画を立てております。校友諸兄のご来校を心からお待ちしております。

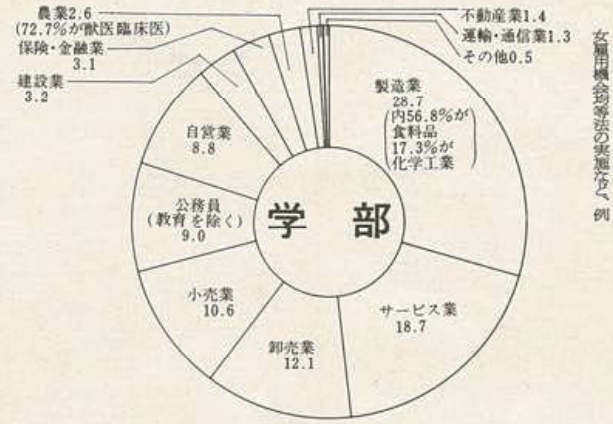
就職戦線 積極的活動を展開

昨年度の就職状況は好条件に恵まれて、図の通りの結果を得ることができました。

本年度の就職戦線は、就職協定が早まったこと、円高不況による輸出関係企業の不振、あるいは男女雇用機会均等法の実施などで、例年と違った状況の中で最終学年次生は積極的な活動を展開しています。

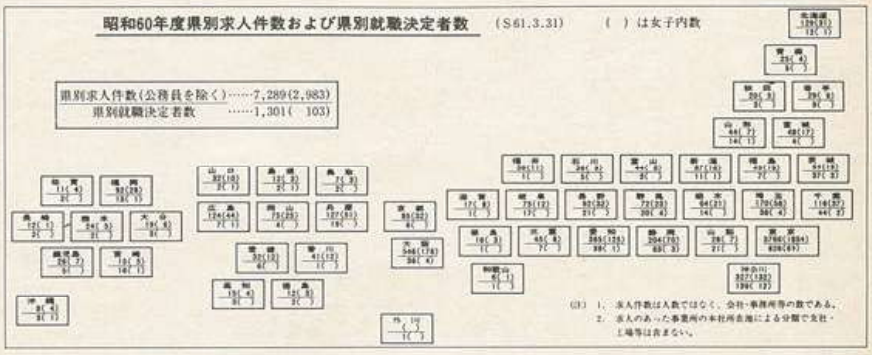
校友諸兄始におかれましても、一層なるお力添えをお願い致します。

昭和60年度産業別・就職決定状況



昭和60年度県別求人件数および県別就職決定者数　(S61.3.31)　( )は女子内数

県別求人件数(公務員を除く)……7,289(2,983)
県別就職決定者数　……1,301(103)



昭和60年度　日本大学農獣医学部校友会会計決算報告

(自) 昭和60年4月1日
(至) 昭和61年3月31日

事務局長　石井賢治

(収入の部)

科目	予算	決算	差異増減	備考
1) 前年度繰越金	1,781,625	1,781,625	0	
2) 入会金	20,220,000	20,320,000	0	
1.昭和60年度 入学	18,850,000	18,850,000	0	@10,000×1885
2.昭和59年度 入学	1,380,000	1,380,000	0	@10,000×138
3.昭和58年度 入学	10,000	10,000	0	@10,000×1
4.昭和56年度 入学	50,000	50,000	0	@5,000×10
5.昭和60年度 大学院	30,000	30,000	0	@10,000×3
3) 積金利子	1,000,000	788,837	▲211,163	
4) その他・雑収入	0	12,500	12,500	
収入合計	23,101,625	22,902,962	▲198,663	

(支出の部)

科目	予算	決算	差異増減	備考
1) 分会交付金	10,165,000	10,165,000	0	
1.昭和60年度 入学	9,425,000	9,425,000	0	@5,000×1885
2.昭和59年度 入学	690,000	690,000	0	@5,000×138
3.昭和58年度 入学	5,000	5,000	0	@5,000×1
4.昭和56年度 入学	50,000	50,000	0	@5,000×10
5.昭和60年度 大学院	15,000	15,000	0	@5,000×3
2) 総会費	6,000,000	4,984,375	1,015,625	
1.人件費	1,600,000	1,437,000	163,000	
2.本部分担金	500,000	500,000	0	
3.事務局運営費	500,000	235,560	264,440	
4.通信費	1,600,000	1,297,650	302,350	
5.会合費	1,500,000	1,357,890	142,110	
6.交際費	300,000	286,569	13,431	
7.交通費	200,000	70,400	129,600	
3) 事業費	6,000,000	4,940,810	1,059,190	
1.名簿検定金	2,500,000	2,500,000	0	
2.会報費	1,200,000	971,110	228,890	
3.会報編集委員会運営費	150,000	92,200	57,800	
4.名簿編集委員会運営費	150,000	0	150,000	
5.記念事業費	500,000	100,000	400,000	
6.学園生記念品	1,500,000	1,277,500	222,500	
4) 予備費	936,625	0	936,625	
支出合計	23,101,625	20,090,185	3,011,436	
次年度繰越金		2,812,777		

積立金(基金) 8,702,800 (太陽神戸銀行 定期)　名簿積立金 11,739,340 (三菱銀行 定期)

監査報告書

経理に監査しました結果、適正に処理されておられることを認めます。

昭和61年6月9日

会計監事　山根　勝次
坂野　忍
戸崎　益一

昭和61年度　日本大学農獣医学部校友会会計予算

(自) 昭和61年4月1日
(至) 昭和62年3月31日

事務局長　石井賢治

(収入の部)

科目	昭和61年度	昭和60年度	差異増減	備考
1 前年度繰越金	2,812,773	1,781,625	1,031,148	
2 入会金	20,680,000	20,320,000	360,000	
1.昭和61年度 入学	19,580,000	0	19,580,000	@10,000×1958
2.昭和60年度 入学	1,040,000	18,850,000	▲17,810,000	@10,000×104
3.昭和59年度 入学	0	1,380,000	▲1,380,000	
4.昭和58年度 入学	0	10,000	▲ 10,000	
5.昭和57年度 入学	50,000	0	50,000	@5,000×10
6.昭和56年度 入学	0	50,000	▲ 50,000	
7.昭和55年度 入学	0	30,000	▲ 30,000	
8.昭和59年度 大学院	10,000	0	10,000	@5,000×2
3 預金利子	900,000	1,000,000	▲ 100,000	
4 その他雑収入	0	0	0	
収入合計	24,392,773	23,101,625	1,291,148	

(支出の部)

科目	昭和61年度	昭和60年度	差異増減	備考
1 分会交付金	10,346,000	10,165,000	181,000	
1.昭和61年度 入学	9,790,000	0	9,790,000	@5,000×1958
2.昭和60年度 入学	520,000	9,425,000	▲8,905,000	@5,000×104
2.昭和59年度 入学	0	690,000	▲ 690,000	
4.昭和58年度 入学	0	5,000	▲ 5,000	
5.昭和57年度 入学	30,000	0	30,000	@3,000×10
6.昭和56年度 入学	0	30,000	▲ 30,000	
7.昭和60年度 大学院	0	15,000	▲ 15,000	
8.昭和59年度 大学院	6,000	0	6,000	@2,000×3
2 総会費	6,200,000	6,000,000	200,000	
1.人件費	1,600,000	1,600,000	0	事務局員1名 (S.60.4~)
2.本部分担金	500,000	500,000	0	
3.事務局運営費	700,000	500,000	200,000	会報編集委員会運営費 (S.60.6~) 名簿編集委員会運営費 (S.60.6~) 学園生記念品費 (S.60.10~)
4.通信費	1,600,000	1,600,000	0	
5.会合費	1,500,000	1,500,000	0	総会懇親1,000,000・その他会合
6.交際費	300,000	300,000	0	総会・分会・支部関係
7.交通費	200,000	200,000	0	支部・分会連絡交通費
3 事業費	6,600,000	6,000,000	600,000	
1.名簿検定金	2,500,000	2,500,000	0	5月年度 検定金とする
2.会報費	1,200,000	1,200,000	0	第90号 40,000部
3.会報編集委員会運営費	150,000	150,000	0	第89号発行に当って
4.名簿編集委員会運営費	250,000	150,000	100,000	本年は新編のため委員会で検討
5.記念事業費	500,000	500,000	0	角田会
6.学園生記念品	1,500,000	1,500,000	0	戒上辞典(1800部)@800一
7.年史印刷費積立	500,000	0	500,000	
4 予備費	1,246,773	936,625	310,148	
支出合計	24,392,773	23,101,625	1,291,148	

積立金(基金) 8,702,800 (太陽神戸銀行 定期)　名簿積立金 11,739,340 (三菱銀行 定期)

会報編集委員

委員長・西島羽　曜
農学校友会・篠原正行
獣友会・有賀豊彦
角笛会・白井弥
満喜葉会・小牧弘
いもづる会・下渡敏治
林学友会・井上公基
校友会・
桜水会・吉原喜好
工学会・川西啓文
食品工学会・千野滅
拓友会・井上雅也
むつあい会・斎藤忠雄
(事務局)
石井賢治・木村真司
本江一郎・月瀬東

日本大学農獣医学部・短期大学部農業科案内

大学院　農学研究科　農学・農芸化学・畜産学・農業経済学・水産学・農業工学・食品工学の各専攻
獣医学研究科　獣医学専攻
大学　農学・農芸化学・獣医・畜産・食品経済・林学・水産・農業工・食品工・拓植の各学科
短期大学部　農業科

昭和62年度　入試科目・期日

学部	昼・夜	学科	入試期日	入試科目
農獣医学部	昼	獣医・農業工・食品工	2月14日(土)	数学「数学Ⅰ, 数学Ⅱ」, 「数学Ⅰ, 代数・幾何」, 「数学Ⅰ, 基礎解析」, 「数学Ⅰ, 微分・積分」, 「数学Ⅰ, 確率・統計」のうちから1科目選択 理科一物理, 化学, 生物のうちから1科目選択 外国語一英語Ⅰ, 英語Ⅱ
		農学	2月14日(土)	数学「数学Ⅰ, 数学Ⅱ」, 「数学Ⅰ, 代数・幾何」「数学Ⅰ, 基礎解析」, 「数学Ⅰ, 微分・積分」, 「数学Ⅰ, 確率・統計」のうちから1科目選択 理科一物理, 化学, 生物のうちから1科目選択 外国語一英語Ⅰ, 英語Ⅱ
		農芸化学・畜産・林学・水産	2月17日(火)	理科一物理, 化学, 生物のうちから1科目選択 外国語一英語Ⅰ, 英語Ⅱ
		食品経済	2月17日(火)	国語一国語Ⅰ, 国語Ⅱ 社会一日本史, 政治・経済・地理のうちから1科目選択 外国語一英語Ⅰ, 英語Ⅱ
		拓植	2月14日(土)	国語「国語Ⅰ, 国語Ⅱ」, 「数学Ⅰ, 数学Ⅱ」, 「数学Ⅰ, 代数・幾何」, 「数学Ⅰ, 基礎解析」, 「数学Ⅰ, 微分・積分」, 「数学Ⅰ, 確率・統計」のうちから1科目選択 理科一物理, 化学, 生物のうちから1科目選択 外国語一英語Ⅰ, 英語Ⅱ
短期大学部	昼	農業科	3月7日(土)	

校舎校舎
●農学科, 獣医学科, 畜産学科, 農業工学科の4学科は藤沢校舎。
●農芸化学科, 食品経済学科, 林学科, 水産学科, 食品工学科, 拓植学科の6学科は, 1年次だけ藤沢校舎。2年次より東京校舎。
●短期大学部農業科は藤沢校舎。

★入試関係についての照会は,
(〒154) 東京都世田谷区下馬3-34-1
日本大学農獣医学部入試事務室へ

会長に西鳥羽曙氏を選出

藤沢校舎で総会開催

満場一致で議事を承認

農学校友会

◇農学科◇

長き夜の
物尋く音に
更けこげる　鬼城

理事　坂倉鼎彦
監査役　芦川勝吉
監査役　浅川広治

新役員の推薦の御活躍をお願い申し上げる次第です。また、長年に亘り、農学科理事を勤められた高橋文次郎教授と事務局長を勤められた坪木良雄教授は前年度をもちまして勇退されました。永い間農学校友会のために尽力され、本当に御苦労様でした。心から感謝いたしたいと存じます。なお、坪木先生は、事務局の全員の推薦で、引き続き新事務局理事に選出されましたので、本会の運営に重ねて御尽力下さいますようお願い申し上げます。坪木先生の後任として、私（篠原）が事務局長役を仰せ付かりました。会員の皆様の一層の御支援をお願いいたします。

▽慶弔

「ミクロの世界」を撮り続けて富士フィルム写真コンテスト最高賞、日本写真美術展総理大臣賞、フィラデルフィア国際写真展金メダル等、数々の賞を獲得され著名であるとともに、生物教育につきましても一家を成しておられる。本会会員の桜井明氏は、本年、大蔵省広報誌の表紙に頒布写真を十八年間載り続けたことにより、大蔵大臣感謝状を受けられました。重ねての快挙にお慶び申し上げますとともに、益々の御活躍をお祈り申し上げます。

本会の客員会員でありました、萩原時雄先生は一昨年米寿を迎えられた後も、益々お元気で、悠悠自適の生活をされておられましたが、本年七月十五日に老衰のために逝去されました。先生は、勝沢市大会の地に、農学部が創設されて、昭和十八年創設メンバーの一員として教授に就任されて以来、二十一年の永きに亘り、教育・研究に情熱を傾けられました。先生の構想によって建てられたと聞きます。

昭和五十六年以来、五年間に亘って、農学科のために御尽力下さいました吉川　潤教授（盆栽学研究室）は本年三月末をもちまして満七十歳の定年を迎えられ退職されました。在任中の先生の一方ならぬ御指導に対しまして心から感謝いたしますとともに、末永い御健康をお祈り申し上げます。なお先生には当分の間、非常勤講師としてお手伝いいただくことになっております。

吉川先生の後任には芋薬大を退職されました福富久夫先生（現盆栽学会会長）が教授として四月より就任されました。

昭和五十七年より四年間、副手として、農業気象学研究室の蒲原敏子を補佐してまいりました片木佳代子（旧姓古川）さんは本年三月末退職致しました。四年間御苦労様でした。片木さんの後任には本年当学部を卒業いたしました、菅原雅子さんが当っております。

藤井秀昭専任講師は昭和六十年度日本大学長期海外派遣研究員として、本年三月末より、米国カリフォルニア大学農学部デイヴィス校の Dept. of Agronomy に一ヵ年の予定で留学し、現在すこぶる元気で充分成果を上げ、関する研究に従事いたしております。所期の目的を達せられ、無事帰国されますことをお祈りいたします。

例年のことではございますが、四年次学生は卒業論文の作成に、また就職試験に真剣に取り組んでおります。四年次担任を中心に、農学科教員一丸となって対処しておりますが、近年生物系の就職が好調とはいえ、異常な円高ドル安で、本年は求人数を縮少している企業が続出しています。可成り厳しいものがあります。卒業生の皆様におかれましては、何卒例年にも増して暖いお力添の程心からお願いいたします。

（篠原記者）

大蔵大臣感謝状を受ける浅野明氏（右手前）

福富久夫教授

曽生雅子副手

農学部創立時の木造校舎と欅の記念樹

紫友会

◇農芸化学科◇

日本大学　森林感謝　研究員（長野市にあり、わが家からは車で五分ほどの近さ。ここでは朝八時半から夕方四時半頃まで仕事をするが、年前と午後にそれぞれ三〇分ほどのティータイムがあり、昼休みを一時間とると、実際には六時間位しか働かない計算になる。しかし短時間に集中して仕事をするなどの工夫をしている。

NZで、自然が十分に保たれている理由は、単に人口密度が低いということだけではなく、日本のように浮ヶ浦ヶまで自動車道が巡らされていないことにもよるのだろう。黄色の道路標識の "No. E. XIT" のサインにたびたび出くわす。これはどこの先で自動車の通行が不可能になることを示すもので、その先荷を担いでトレッキングするしかない。小生も家族連れで海岸へ、テント持参でよくでかけた。何故、海岸かというと、いい楽しむことにした。しかも土曜がよく採れるからだ。パウアとアワビとウニを前に（筆者と長女）

農芸化学科への入学希望者急増

最近のベビーブームも手伝って当科への入学志願者はここ数年想像を越える急増ぶりをみせている。因に今年の受験者数は二五四六名で内二〇〇名が入学した。

四年生の就職状況も極めて良好であった。就職先の内訳は食料品、製薬関係が約半数、教育や情報などのサービスが一〇、公務員、大学院進学、卸売業などがこれに続いている。これからも益々農芸化学科への期待は高まるものと考えられる。同窓諸兄とともに喜びたい。学科としても時代のニーズに応えるために、カリキュラム再編の動きがでてきている。

◇学科の動き◇

名取正教助教授は四月一日付けで教授に昇格された。当科の将来を担うホープとして同氏が期待される。また本会監事で、現在本学当科の教授、山本一彦氏（食品工学科）は、各所にわたる植物油脂に関する研究の成果が高く評価され本年四月日本食品工業学会賞を受賞された。

紫友会総会

日本大学会館で開かる

紫友会の定例総会は十一月九日午後五時より日本大学会館で開催された。本会会員約四十名の出席を得て行なわれた総会はまず茂澤会長の挨拶に始まった。三十周年の式典が成功裡に終えたことの会員各位への感謝が述べられた。次いで木鶏副会長の議長に選出し、五十九年度の経過報告、予算審議六十年度事業計画などの議事が滞りなく進行した。これらの中で、本年度に計画した会員名簿のファイル化については事務局で再度詳細に検討した上で来年度の総会に計ることとなった。

閉会後、会館地下食堂において懇親会が行なわれた。（有賀豊彦）

日本大学会館地下食堂での懇親会

ニュージーランドに遊ぶ

事務局長　山本一彦

暗日も休日で、小生にとってまたとない機会であった。NZ人達には自分の家を自らの手で建てるという習慣があるようで、人々は実に器用に家を新築したり、増改築したりする。多くは土曜と日曜日をそのために当てるが、わが家は借家だから、補修やペンキ塗りの必要はない。ただし週に一度位の割合で屋の芝刈りは欠かせなかったが。それにしても休日はよく郊外に遊びに出かけた。また、冬と夏には長期の旅行にも出かけ、NZの北端から南端までまゝ巡って、素晴しい自然と風土を満喫した。

三十ヶ所採り、蒸焼でバーベキューする。大人でも三つも食べると満腹になる。残りは持ち帰り、刺身やステーキにして食べた。こんな生活をしていると、次の休日が待ちきれず、時には平日の帰宅後、ちょいと海りに出かけたりした。NZでは夏時間が施行されるので、五時でも明は高い。

近郊の小さな山にも登った。わずかな語彙を頼りながら、密林の中にルートを探すスリルを楽しんだ。大きなきのこを拾ったり、毒々しい色のきのこを見つけたりしながら、うっそうとした中を歩く。NZには毒蛇はおろか、危険な動物がまったくいないので、安心してどんなヤブの中へでも入り込める。森林をぬけると、必ずといっていいほど牧草地が広がる。抜けるような青空の下、草いきれと手の中を頂上に立つ。他人と合うこともめったにない。

正直に云うと、NZの自然を相手にもっともっと暮らしてみたかった。一年はまたたく間に過ぎた。

小生のNZ留学に際し、茂沢会長はじめ多くの会員の方々から数々の暖いご支援を頂いた。記して感謝の意を表し度い。

（昭和六一年八月　記）

校友会関係の方々をお迎えし、懇親会が行なわれた。（有賀豊彦）

角笛会

◇獣医学科◇

61年度角笛会総会開催される

六十一年度総会が五月二十四日、午後三時より四時まで二時間にわたり三軒茶屋「銀座アスター」で開催されました。これまで総会は学部内で行われていたのですが今回は初めて学外で開催され、代議員十六名を含む六十四名の会員が出席しました。席上、議長に津城宏氏（佐賀県）が選出され、また福田事務局長より六十年度の事業報告、農部会計幹事より決算報告、吉田監事の監査報告があり承認されました。次いで六十一年度事業計画案および予算案について審議され、概ね、次のことが決まりました。

一、八十周年記念事業実行委員会（横成と委員）の設置が承され、実行委員長に目比野次郎氏（東京都）に決定した。

二、宮田副会長から、旅費規程について常任理事以上の役員に実費を支給することが理事会で決定した旨、説明がありました。

三、支部未設定地区については、支部の設置を促すことを申し合わせた。この件に関連して北海道地区について佐藤大生氏は、札幌ブロックを中心に整備して支部の充実、拡大をしてゆきたい旨、説明されました。

61年度総会

議長の津城宏氏

歓談される川田信平先生

懇親会開催

総会終了後、四時三十分より引き続き同じ「銀座アスター」で開かれ、会には六十四名の会員の参加がありました。今回は学部執行部から大森研究担当をはじめ、農獣医学部校友会会長、他の八学科校友会代表の出席をいただきました。また、教職員および恩師の先生方も招待し、和やかなうちに懇親の実をあげました。なお、御出席いただいた中に川田信平先生（元解剖学教授）のお姿があり、先生は御年九十二歳とはみえず、御退職当時とおかわりなく、お元気で御歓談されていました。

夏季牧場実習

獣医学科二年次学生は、この七月二十三日より一ヶ月間にわたり左記の牧場において恒例の牧場実習を行った。

一、北海道　中標津町・別海町・標茶町・浜中町（一〇〇名）

二、岩手県大東町（一〇名）

三、山梨県鳴ヶ岳牧場（二五名）

四、日本大学付属農場（二名）

なお、引率者は、津曲茂久専任講師、大場茂夫専任講師、高木香助手の先生方です。

中標津町での牧場実習風景

獣医学科人事異動

この二月一退職された先生は、長守一教授（病理学、東大卒）と安田玲子助手（公衆衛生学、日大畜産学科卒）のお二人です。

新任は、安田玲子副手の後任として、坂本東翔副手（日大畜産学科卒）が就任されました。今後の活躍を期待します。

その後、薬理学の大山健次研究所教授（一六年卒）が六五歳の定年で五月一十九日をもって退職されました。

酒井健夫助教授が海外出張

酒井健夫助教授（獣医解生学）は農獣医学部国際地域研究所の交換研究員として、タイ国に八月十日から九月十日まで、日本脳炎の研究のため出張されました。

80周年記念実行委員会結成

去る月二十四日の角笛会総会で、八十周年記念実行委員長は目比野次郎氏に決定され、第一回実行委員会は七月三日に行われました。出席者は二十二名で、副委員長に宮田萬司氏と長尾壮七教授が選出され、記念式典、祝賀会、記念事業、記念事業費同金等について検討され、記念式典と祝賀会は昭和六十二年十一月二十三日に決定しましたが、その他の件については次に委員会を重ねて検討してゆくことになりました。第二回実行委員会は九月二日（火）午後三時半より、東京校舎第一会議室で行うことになりました。

大熊俊一先生春の叙勲受賞

大熊俊一先生

大熊俊一先生（日大大学名誉教授）は、この春の叙勲で勲四等旭日小綬章を受章されました。先生は現在、国際学院埼玉短期大学の副学長をされております。

先生の御健勝と後進々の御活躍を心から祈念します。

名古屋で東京獣医畜産学会

今年度の東京獣医畜産学会（岡野真臣会長）は早の内科で開催されます。

大学院獣医学研究科学生有志

アメリカで夏期セミナー

放射線学のモーガン教授を囲んで（デービス校）

担当学部長・加藤務局長、担当学部事務局長・坂内員介氏

日時・十一月三日、午前十時

会場・愛知県産業貿易館、名古屋市中区丸の内三丁目一番六号

電話・〇五二―三二一―六三五一（名古屋駅より地下鉄、名城線、市役所駅下車、徒歩五分）

講演は、一般講演の他、シンポジウムとして（一）家畜寄病の動向と最近の話題について。演者は吉野知男氏（三八年卒・農林水産省、家畜衛生試験場、北海道支場）、林信治氏（三四年卒・宮山県、食肉検査所）、金田吉史氏（四五年卒・愛知県、豊田保健所）、杉山明氏（四五年卒・三重県衛生研究所）の先生方。（二）小動物におけるEMERGENCIESに関して。演者は吉田仁夫氏（三四年卒・日大大学助教授）、川瀬清氏（三二年卒・東京都、開業）、鷲塚貞長氏（三六年卒・名古屋市、開業）の先生方です。多くの先生方の御参加をお願いします。

獣医学科人事異動

この二月一退職された先生は、長守一教授（病理学、東大卒）と安田玲子助手（公衆衛生学、日大畜産学科卒）のお二人です。

新任は、安田玲子副手の後任として、坂本東翔副手（日大畜産学科卒）が就任されました。今後の活躍を期待します。

その後、薬理学の大山健次研究所教授（一六年卒）が六五歳の定年で五月一十九日をもって退職されました。

酒井健夫助教授が海外出張

酒井健夫助教授（獣医解生学）は農獣医学部国際地域研究所の交換研究員として、タイ国に八月十日から九月十日まで、日本脳炎の研究のため出張されました。

80周年記念実行委員会結成

去る月二十四日の角笛会総会で、八十周年記念実行委員長は目比野次郎氏に決定され、第一回実行委員会は七月三日に行われました。出席者は二十二名で、副委員長に宮田萬司氏と長尾壮七教授が選出され、記念式典、祝賀会、記念事業、記念事業費同金等について検討され、記念式典と祝賀会は昭和六十二年十一月二十三日に決定しましたが、その他の件については次に委員会を重ねて検討してゆくことになりました。第二回実行委員会は九月二日（火）午後三時半より、東京校舎第一会議室で行うことになりました。

大熊俊一先生春の叙勲受賞

大熊俊一先生（日大大学名誉教授）は、この春の叙勲で勲四等旭日小綬章を受章されました。先生は現在、国際学院埼玉短期大学の副学長をされております。

先生の御健勝と後進々の御活躍を心から祈念します。

名古屋で東京獣医畜産学会

今年度の東京獣医畜産学会（岡野真臣会長）は早の内科で開催されます。

満喜葉会

◇畜産学科◇

理事、幹事会ほか各委員会が活動

満喜葉会創立40周年

記念事業の大筋が作りあげられる

満喜葉会では、昭和六十年五月十二日に理事、幹事会開催と同時に、第一回の四十周年記念事業実行委員会を開き、さらに十月十九日記念事業実行委員長会を開催し、これで昨年の十一月二日の理事、幹事会に続いて三回目の四十周年記念事業実行委員会となった。

この間、事務局会議、記念誌編集会議、財務委員会もひんぱんに開催され、事業の大筋が作り上げられた。

40周年記念事業協賛の予約開始

日本大学満喜葉会が創立されて以来、明年三月で四十年を迎えることとなりました。これを慶祝し、日本大学会館に於いて、その記念式典を開催し、記念事業の一環として記念誌「四十年史」と会員名簿「満喜葉会々員名簿、記念号」の発刊等を企画いたしました。

記念誌「日本大学畜産学科四十年史」の頒布予約

式典等には参加できないが、「日本大学畜産学科四十年史」を必ず入用の方は予約して下さい。一部三千円（送料含む）

三、広告の予約

この度、四十周年の記念事業の一環として、会員名簿を発行致しますが、この「日本大学満喜葉会名簿」（昭和六十二年発行予定）に掲載する広告（団体、企業、商品、地域、分会、同期会、個人名等）の予約を承っております。

☆広告申込締切日　昭和六十一年十二月一日

☆広告料金　一頁四万円、二分の一頁二万円、四分の一頁一万円、八分の一頁五千円

広告原稿によっては、製作費がかさむ際に製作費をご負担いただく場合がございますので、ご了承願います。なお、原稿がございましたらご連絡下さい。

四、「日本大学満喜葉会記念事業協賛寄付金」の募集受付開始

☆募金目標額　三百万円

募金額は一口五千円で、一口以上幾らでも結構ですが、なるべく二口以上お願い致します。

☆募金締切日　昭和六十一年十二月二十日

☆広告料金　一頁四万円、二分の一頁二万円、四分の一頁一万円

広告原稿によっては、製作費がかさむ際に製作費をご負担いただく場合がございますので、ご了承願います。なお、原稿がございましたらご連絡下さい。

四、「日本大学満喜葉会記念事業協賛寄付金」の募集受付開始

☆募金目標額　三百万円

募金額は一口五千円で、一口以上幾らでも結構ですが、なるべく二口以上お願い致します。

口座番号　横浜　六一四八三〇七

加入者名　日本大学満喜葉会

☆募金締切日　昭和六十一年十二月二十日。

詳しいことは広告・寄付金担当者の事務局（塩谷正勝、鈴木初江）宛に連絡下さい。

五、会員の方で、終身会費相当寄付金納入者には、会員名簿をお送りします。この機会に終身会費相当寄付金未納の方はご納金いただきますようお願い致します。

福島正次　大西靖彦　両先生が春の叙勲に

昭和六十一年四月二十九日、名古屋農の賜物であります。誠に喜ばしい限りで、ここに衷心よりお祝い申し上げます。

今後、ますますのご活躍を期待します。

☆――――☆

名誉教授・福島先生の叙勲を祝う集いを開催

昭和六十一年四月二十九日に瑞四等瑞宝章を受章された福島正次先生の叙勲を祝って、七月十三日（日）研究室の卒業生を中心に新宿ステーションビルの伊勢丹プチモンドにおいて、お祝いの会が開催されました。先生が長年に指導されてきた多数の方が遠路お祝いにかけつけ、多期卒業生の紹介もあって、久方ぶりに福島先生の笑い顔をみて会は盛況の内に閉会し、皆、元気に再会を願って散会しました。

福島正次先生の叙勲を祝う集い

就職懇談会開く

学外から講師を招いて

畜産学科では、三、四年次を対象に学外講師による、就職懇談会を開催した。今年度は「我が国の畜産諸領域の現況と展望について」と題して、畜産諸領域の現況と展望についての解説と、これら諸領域への就職に際しての助言をいただく講演会を、昭和六十一年五月三十日（金）一時より五時まで第一講義室で行った。

今年は講師として、神奈川県農政部技師の先崎久氏（六十年畜産学科卒）、畜産振興事業団理事の伊藤憲一氏（五十二年畜産学科卒）、農水省農業研究センター総合研究官の向居彦夫氏、元全国畜産農業協同組合連合会総務部長で現在馬事事務会館事務理事の中瀬康弘氏、日本飼料工業会元理事の麻生和衛氏、日本食肉格付協会総務課長の秋山茂明氏をお呼びして講演を行った。

公務員や入社試験等の就職対策としてなんらかの役にたつものと期待している。

訃報

元畜産学科教授戸原三郎先生は昭和六十一年七月六日五時十八分急性肺炎のため死去されました。享年七十五歳。

先生は農水省畜産試験場作業部退職後昭和四十七年六月から本学教授として昭和五十六年三月まで教鞭をとられました。畜産学科では、家畜育種学、家畜解剖学の講義を担当されました。豚の骨盤の数の研究を長年され、昭和五十九年に日本養豚研究会から学会賞を授与されました。

（小牧　弘）

いもづる会

◇食品経済学科◇

61年度の総会と懇親会

昭和六十一年度総会及び懇親会は恒例により七月の第二十五日曜日七月五日新御茶ノ水ビル二十一階にある「銀座アスター」で多数の校友・来賓の出席を得て盛大に開催された。昭和六十一年七月現在いもづる会会員数は四五七〇名（本年三月卒業生二二五名）に達し、二、三年後には優に五〇〇〇名を突破するものとみられている。こうした会員数の膨張は、いもづる会の活動を予算面や運営面で次第に困難なものにしてきていることから、会としてもこれらの問題に対する新たな対応を迫られてきている。この点について幹事会や事務局会議等において種々論議されてきたが、今次総会においても、こうした事態に対応してゆくために(1)終身会費の徴収、(2)研究室別幹事制の導入が必要になっている点について高坂事務局長から報告と提案があり了承された。また当面の最重要課題である四〇周年記念事業については小林寛行委員長、高坂事務局長よりその概要と進捗状況について報告と提案がおこなわれ会員各位の理解と協力を得ることができた。その他の総会の審議・報告事項は大略次のとおりである。

一、六十年度会活動状況報告
二、決算及び六十一年度予算の報告と審議
三、三十周年記念事業決算及び四十周年記念に関する会計報告
四、三教授の還暦を祝う会会計報告
五、その他

総会終了後午後六時より懇親会に移り、佐藤いもづる会長挨拶、白山学部校友会副会長の祝辞に続いて、丸尾学部次長が農獣医学部を代表して挨拶と学部の現況、将来の展望について話されました。この中で丸尾次長は、本学の入学志願者の数が昨年度早稲田大学を抜いて初めて日本一になったこと、中でも農獣医学部への志願者が激増し、下馬校舎だけでは対応できず経済学部、法学部の校舎を借用して入試を実施したことなどが披露された。また施設関係については現在勝沢校舎に講堂兼体育館が建設中であり来春竣工の予定であること、バイオテクノロジーに関する研究・教育を推進するため応用生命学科（学部）と女子教育のために生活環境科（短大）を開設すべく現在その手続きが進行していること、このための新しい研究棟の建設が間もなく着工される予定であること等が報告された。さらに校友及び校友会活動にも言及され、これまで校友・校友会が学部や大学の発展に寄与した功績を高く評価された。このあと青木名誉会員の音頭で乾杯した。

また席上運営方から配付していただいた高知支部の宮崎支部長と外谷長野支部設立準備委員会の代表世話人の紹介と挨拶があった。現在いもづる会の地方支部は高知山梨の二支部だけであるが、今回の長野支部のように新たに地域、職域で支部を結成しようという気運が高まってきている。こうした各地域の動きは、いもづる会が従来の東京中心・中央中心の活動に加えて地方や職域という広域的・多面的な展開の段階にきていることを示すものであり、こうした気運が高揚し会が益々発展してゆくことを期待したい。

終身会費の納入順調に

会則十三条の改正による終身会費の徴収は本年三月卒業生を皮切りに順調に納入がすすんでおり、昭和六十一年七月現在三〇六名の会員が納入を終えている。卒業期別の納入状況は別表のとおりであるが、納入がおすみになっていない会員の方もできるだけ早い機会に納入していただくよう紙面を借りてお願い申しあげます。

卒業期別終身会費納入者数

卒業期	納入者数	卒業期	納入者数
1	3（名）	22	1（名）
2	0	23	4
3	2	24	4
4	1	25	7
5	0	26	9
6	3	27	2
7	1	28	3
8	2	29	8
9	3	30	5
10	2	31	9
11	2	32	4
12	0	33	4
13	3	34	5
14	4	35	2
15	1	36	8
16	1	37	6
17	5	38	2
18	0	39	6
19	4	40	87
20	2		
21	6	合計	222

研究室別幹事制の導入

昭和四十年代の初め頃まで比較的少人数で推移してきた新入会員数が、昭和四十三年頃を境に毎年急速に増え続けてきている。したがってこうした会員数の膨張の下で従来の運営方法によっては会員の掌握、会員相互間の連携が難しくなってきているなどから、従来の学年別の幹事制を改め、今後は研究室単位で各一名の幹事を選出してもらいより肌理の細かい組織運営に取り組んでゆくことになった。現在食品経済学科は十四の研究室に分れており、二年生以上になると各々調査、ゼミナール、卒論執筆のため、いずれかの研究室（研究班）に所属することが義務づけられている。このように各研究室が一つのまとまった学生の集団を構成している点に着眼し、従来の学年別の代表幹事制を改め、研究室毎に幹事を選出し校友会のパイプ役を務めてもらうこととなった。今春卒業の三十九期生と来春卒業予定の四〇期生については早速幹事が選出され、このたびの総会・懇親会には校友会活動への理解を深めてもらおうという意図もあって無理招待された。また夏期休暇明けには校友会幹部、事務局との間で懇談会を開く予定でこれまで大幹事提で出なかった会員・準会員の縦と横の連携が密になり、校友会活動の活性化につながるものと期待される。

40周年事業委員会発足

二年後に迫ったいもづる会結成四十周年記念事業を推進してゆくために次のような小委員会が発足した。

四十周年記念実行委員長　小林　忠夫

〈小委員会〉
祝賀パーティー委員会（上野）
財務委員会（安村）
広報委員会（伊予）
記念誌編集委員会　西村、小林、島田、諸星、野畑、高野（下渡）

（　）内は事務局担当者
各委員会とも四十周年にむけて具体的な作業に着手しつつあるが記念事業の大きな柱である記念誌の刊行については、既に数回にわたって検討を重ね、編集方針、編集内容、執筆者の確定、原稿や資料の蒐集等具体的な作業に着手している。予算の制約がある中で、可能な限り内容の充実した記念誌の発刊にどこまでつなげるべく編集委員一同鋭意努力している。

学科の近況

科名変更二十周年と人の動き

いもづる会が結成後四十周年を迎えるのと相前後して、食品経済学科が旧農業経済学科から現在の名称に科名変更して十度二十周年を迎える。科名変更二十年という重要な節目を迎えるにあたって、未だ社会科学の研究領域のなかにあっても確立されておらず、しかも一般にはまだまだなじみの薄い食品経済学について、学科がこれまで蓄積してきた業績を世に問う形で記念事業を実施しようという気運が学科内にでてきている。こうしたことから昨年、食品経済学科科名変更二十周年記念事業委員会が発足し、山根学科主任を研究担当の高橋教授を中心に総勢八名のスタッフを選任し、その検討を急いできた。その結果記念論文集の出版を軸に、食品経済関係のデータバンクを作成することで科内の合意に達した。これを受けて目下学科教員一丸となって各面の研究領域の確立、食品経済学の学的体系の確立をめざして邁進している。とくに今年度入ってからは「学科研究会」の場で若手教員による個別研究発表が相次いでおり、また科内の教員がいくつかの研究グループを結成し活発に研究を推進している。これらの成果は、記念論文集をまとめるべく来年度「食品経済研究」などの研究誌を通して発表されることになろう。

上路利雄助教授

一方、学科の人の動きとしては、本年四月上路利雄助教授が新任になった。上路先生は昭和四十二年に東京教育大学農学部（現筑波大）を卒業したあと、農林水産省農業技術研究所を振り出しに、東北農試経営土地利用部の主任研究官として活躍されていたが、このたび学科の強い要請により食品経済学科の一員として着任された。専攻は統計学で、統計学と計量経済学を駆使して経済原論Ⅱ（マクロ経済学）、経済統計学を担当される。所属は二号館一階の食品統計学研究室。

事務局から

【高坂　鉄雄】

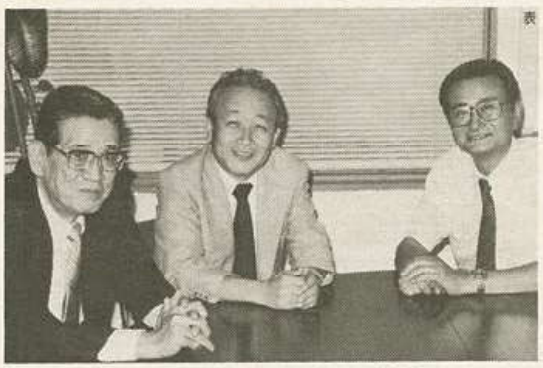
昨年度の校友会誌に掲載いたしましたように、三教授の還暦を祝う会が発足以来、たくさんの校友の皆様方に賛助をいただきました。その後も賛助金が事務局あてに多数届けられましたが、本会は本年五月三十日をもって解散・終了いたすことになりました。この期間に寄せられた賛助金の総額は、二百四十二万五千円に達し、六十、六十一年度の懇親会において佐藤いもづる会長から三教授に均分授与されました。また残りの一万一千余円につきましては、総会の承認を得て記念誌作成のための費用の一部に使うことになりましたので、ご了承ください。このたびの企画に対する皆様方のあたたかいご支援・ご協力に重ねて御礼申しあげる次第です。皆様方のご健勝とご活躍を祈念して、御礼の言葉にかえさせていただきます。

（下渡敏治）

林学科分会

◇林学科◇

片岡寛純先生　学科主任に　鹿野会長らと座談会


左より鹿野会長、片岡主任教授、大川副会長

学科主任の抱負

昭和六十一年度より林学科校友会の片岡寛純先生が、林学科主任教授に就任されました。

これを機会にとのはからい、校友会と林学科校友教員とが、林学科主任を囲む座談会（写真右）が鹿野会長、大川副会長、片岡学科主任、本江、森本の四助教授、石垣、井上の四専任講師の参加で行なわれました。

この席で新主任の抱負としては、片岡国立大学、信州大学をはじめ学生を社会に送り出したことを希望する個所が特に強く、校友会としてもこれに対応すべく地方に林学科校友会支部の設置が強く望まれ、近々検討される運びとなりました。以上のことが話し合われました。

地方に林学科支部の設置を検討

最近の学生は、卒業後Uターンを希望する傾向が特に強く、校友会としてもこれに対応すべく地方に林学科校友会支部の設置が強く望まれ、近々検討される運びとなりました。以上のことが話し合われました。

林学科校友会長賞　61年度から新設へ

校友会の会員、準会員、また塾会員の方に対して校友会が行なう具体的な活動の一つとして、新たに昭和61年度より、特待生を除く学業優秀で、林業関係に進む卒業生数名に対し、林学科校友会長賞を授与することを今度の総会に諮ることになりました。

また、これに関連して社会の一線で活躍されている林学科校友会員の内、特に社会的評価の高い功績等に対しても同様の賞授与を検討する。

多湖さんが国際協力事業団女性初のコーディネーターに

林学科三期卒業（四九年卒）の多湖恵子さんは、国際協力事業団のコーディネーターとして一昨年八月より二年間ハルビンに滞在（写真下）され、このほど帰国されました。

多湖さんは、在学中の発表、独唱はもちろんのこと、卒業後中国語をマスターされ、日中農林業交流に貢献されました。

ちなみに独身の多湖さん、キャリアウーマンか結婚か、悩まれながらも、再び北京へ出発されました。

ハルビン林業科学院長（左より3人目）と多湖さん

林学科の動向

長年にわたり林学科主任教授、調査林長を歴任されました森林工学研究室の梅田三樹男先生は、定年により退職されました。

なお、引き続き非常勤講師として森林収穫学、森林機械学等を担当して頂くことになりました。

また、造林研究室の殿代邦夫副手は、大学院へ進学のため退職されました。

さらに、資料室の石崎敦子副手は、退職され、海外林業コンサルタンツ協会へ転出されました。

お二人に代わり、長谷川弥生、本橋恵理子の両副手が新任されました。

実験実習等につきましては、昨年同様行なわれており、特に見学実習では、昨年に増して校友諸兄の御協力の下に、益々充実したものとなっております。

海外出張関係では、昭和61年度中期海外派遣研究員として石垣逸朗講師が米国オレゴン州立大学へ留学されます。

また、本江一郎助教授、井上公基専任講師は、調査並びに学術交流のため、インドネシア、中国へ夫々出向かれました。

さらに、片岡寛純教授、山田房男教授、本江一郎助教授は、第十八回国際林業研究機関連合会議での研究発表のためユーゴスラビアへ出張されました。

61年度の入学志願者数倍増

一八歳人口の増加傾向と森林の再認識とが相俟って、今年度の林学科入学志願者数は、昨年を遥かに上回り千百名を突破しました。

この傾向は、暫く続くことが予想されますので校友諸兄におかれましても益々の御指導をお願い致します。

15期生が記念クラス会　京王プラザホテルで

昭和四〇年度卒十五期生のクラス会が、本年二月二十二日（土）午後三時から、京王プラザホテルで行なわれました（写真右）。

学科からは、片岡、佐々木、本江、塙沢先生も参加され、昔話に花を咲かせるやら、今日の業界での活躍ぶりを話題にするやら、大変盛況でした。

栗田勲先生逝去

兼ねより自宅療養中の栗田勲先生は、今年七月十四日に逝去されました。

先生は、昭和三十二年二月に林学科教授として奉職され、実に二十五年間（六期～三十期卒業生）の長きにわたって造林学、森林生態学、森林立地学等の講義を担当されました。

この間、学部の数々の御要職につかれ、今日の林学科の基礎を築かれました。

御記憶の新しい諸兄には、授業中の興味深い話のあったことが今や直接先生の講義に浴した者の誇れる思いとなりました。

慎んでお悔やみを申し上げると共に冥福をお祈り致します。

大内晃先生逝去

昭和五十三年度より四年間、林業経営学研究室教授を担当されました大内晃先生は、兼ねてより自宅療養中のところ去年八月二十二日に逝去されました。

慎んでお悔やみを申し上げると共に冥福をお祈りいたします。

（井上公基）

近く総会を開催　校友会名簿の発行も

（事務局・塙沢剛海治）

本年は一期生が卒業されて三五年目の節目年にあたり、十月中に各期の幹事（二名）宛ご同窓生の解明を依頼して、総会時までに発行出来るようにしたく作業を進めております。

そこで、最近住所や勤務先に変更のあった諸兄は事務局あてご一報下さるようお願い申し上げます。

校友諸兄の御健康・御活躍を祈ります。

桜水会

◇水産学科◇

桜水会東海支部

三番目の支部として誕生

有楽町で逢いましょう!! 若い会員の方はこの言葉は御存知ないかも知れませんが、このスローガンを掲げて、五月二四日に教育厚生橋ニュートウキョウビル九階の中国料理「ろん」で、六一年度総会・懇親会が開催されました。たまには、三軒茶屋周辺から離れるのもいいものです。総会では、六〇年度に桜水会が行った事業および決算報告、六一年度に行なおうとする事業および予算等について、総会に先立ってされた代議員会の決定事項が報告されました。六一年度の予算規模は、昨年度と同様四〇〇万円となっており、これは名簿作成費二七〇万円を計上してあるためです。名簿編集委員会も中坂幸蔵副会長を委員長として発足し、具体的な活動に入っており昨年九月にワープロを購入し、専属のアルバイト(矢野節さん・二七期卒)に整備をお願いしております。

七期卒)に整備をお願いしております。勤務先や現住所の変動があった会員は、事務局もしくは水産学科教員までご連絡ください。総会では、かねてから申請のあった桜水会東海支部の設立について審議され、設立が承認されました。関西・北陸に加えて、三番目の支部となり、会員のより一層の交流が図られることになるでしょう。

懇親会風景

総会で事業報告をする広瀬事務局長

支部長は青木氏

桜水会東海支部

事務局は三島学園内に

桜水会東海支部が設立されました。東海地方は会員数も多く、二〇〇名以上と聞いております。地理的な関係から、静岡、愛知、三重の三県に小田原市を含めるとの事で、事務局は静岡県三島市の日本大学三島学園に置かれております。支部役員を紹介しましょう。

支部長青木久尚(一期卒、日本大学国際関係学部)、副支部長三橋治男(六期卒、富士乳業三島工場)、大西慶一(七期卒、静岡水試伊豆分場)他二期事八人、事務局長　窪沢　誠(二三期卒日本大学三島学園)他事務局員数名が置かれております。特に提出の卒業生で東海地方に在住で、支部が設立されたのを御存知ない方は、事務局まで御連絡下さい。住所は〒四一一　三島市文教町二丁三三一四五　日本大学三島学園内　電話〇五五九一八六一五五〇〇(代)です。

☆学科内状況☆

海外出張

出口吉昭教授は六月にマニラで開催された養殖に関する国際会議に研究発表のため二週間、八月には魚類の養殖指導と視察のため台湾へ一週間ほど出張。門田定美教授は八月三日～八月一八日までサンパウロ大学教授のため、西出英一教授は大田海外交流基金によって、国際産業学会出席のため、七月二五日から八月二九日までブラジルへ出張されました。

臨海実験所だより

今夏もまた三田臨海実験所における学生実験が七月一八日からの海洋学実験を皮切りに水族遺伝・育種学実験・漁業学実験と相次いで実施されました。今年は梅雨明けが早く、海洋学実験は台風のあおりを受けサンザンでした。海洋学実験担当者の一人として、朝一番の日課は、なにをおもまず屋上にあがって空をみて、海をみて、雲よ飛んでけ! 風よやめ、ウネリよとわらと念ずることでした。

八月二五日からは恒例の第一三回海産生物おそびプランクトン調査が中学・高校の理科担当の先生方四〇名が参加して実施されました。今年は付属高校の先生方より、一般高校の先生の参加者大きく目立ち、この行事の趣旨が普ねく浸透していると関係者は大喜びです。

観測調査船すざき船上で　(海洋学実験)

多彩な向学の士が集う水産学科

卒業しても何年かたつと、学生時代もっと勉強しとけばよかったと思う事は筆者ならずとも、皆さん一度は思った事があるでしょう。大学を卒業し、四年間学んだ知識をさらに深めたい、あるいは社会に出てから、再び専門の知識を吸収したいと考えている方々に水産学科では、大学院をはじめ研究生、研究員として多くの人材を受け入れてきました。これらの方々の中には大学院で博士課程を終えてから、あるいは会社や試験・研究機関から派遣され、一定の期間研究員として在籍した後に論文を提出し学位を取得した方々もかなりおります。また最近では、文部省の国費留学生として水産学科に入ってくる外国人が増加しております。そこで、これらの方々の紹介をしてみましょう。

大学院生

▽博士課程前期(修士)

伊東基彦(西出英一)、大野光宜(西出英一)、佐川義則(出口吉昭)、福本充晃(出口吉昭)、吉川康夫(浜田秀男)以上各名が修士二年です。角原美樹雄(出口吉昭)、永田匡(門田定美)以上二名が修士一年。▽博士課程後期(博士)は一名で上田竜太郎(出口吉昭)です。名前の下のカッコ内は指導教授です。

研究生は九名もおります。石川和男(海洋・資源学第一研究室)、五十嵐健志、岩澤弘美、加藤正和(海洋・資源学第二研究室)、赤井尚士、木村哲朗、田中雅幸、北脇屋徳郎(水産利用学研究室)。研究員として一四期卒の中坂さんが在籍しております。彼の経歴は、国際協力事業団の派遣専門家として、トルコの水産高校設立、メキシコの潮間帯調査、ソロモン諸島の海産生物調査、チリのコロザナ放流事業等々一六年間海外を飛び回って各国の水産振興に協力し、昨年一二月国際熱帯協力団に移って一年間内地勤務を命ぜられましたが、研修希望を出して許可が下り、母校に戻ってきた訳です。今は水産増殖研究室に籍を置き研究生活に専念しています。

大学院生の研究テーマは、ヒラメ・マダイ・ブリ・ヒラマサ・ウナギ・ボラ・ヒラメ・ヒラマサ・ウナギ・ボラ・ヒラメ・ヒラマサ・ウナギ・ボラ・ヒラメ

食品工学会

◇食品工学科◇

二十年をふり返り

食品工学会副会長・事務局長　青井幸雄

会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は食品工学会発展にご協力、ご支援を賜わり厚くお礼申し上げます。

食品工学会は昭和四十一年に第一期生百十八名で発足以来、二十年になり、今年卒業の第二十一期生で三百八十一名の大きな団体に成長しました。これも偏えにお世話いただいた諸師、校友諸兄姉の努力の賜物と思います。

この二十年間に思われることの出来ない多数の思い出がありました。中でも昭和四十三年、四十四年の学園紛争、ちょうど私は四年生で、都内を転々としながらの授業、卒業式もなく、四年生の時で、都内を転々としながらの授業、卒業式もなく、四年生の時で、都内を転々としながらの授業、卒業式もなく、四年生の時

むつあい会

◇短期大学農業科◇

藤沢校舎で61年度総会

名簿作成などを承認

編集委員も決まる

むつあい会10周年記念祝賀会

短大農業科校友の皆さんお元気ですか。今年は長雨が続き、夏が待ち遠しい思いでしたが、暑っかった夏もいつしかさわやかな秋風の立つ季節となりました。ご健勝にて活躍のことと存じます。

まず、むつあい会の近況からお知らせいたします。昭和六十一年度第一回の理事会は、一月二十五日（土）藤沢校舎において開催し総会提出案件について熱心に検討されました。昭和六十一年度の総会は三月十五日（土）藤沢校舎本館第一会議室において開催され、まず義長に福吉利夫氏（四期）を選出し、昭和六十年度の事業報告ならびに会計決算報告、六十一年度の事業計画案ならびに予算案の審議、事業計画としては新卒業生に対する記念品贈呈に関する件、会員名簿及び会報第十号発行に関する件などについて審議し承認されました。会名簿については五十六年発行以来で、その間会員数も増加しておりますので名簿を作成することになりました。会報や名簿の発行はなかなか大変な作業ですが、編集委員として次の方々にご協力いただくことになりました。（敬称略）

楠本　守、横関　敏治、鈴木　勝春、江場秀造、鷹沢　登、鈴木朗夫、勝山信弘、鷹内一夫、広長正、斎藤忠雄

以上十名です。

懇親会は、例年通り総会終了後藤校舎第二食堂において開催され、富沢会長の挨拶、短大農業科長田口一郎教授の来賓祝辞に続いてむつあい会顧問田村信雄氏の乾杯の音頭ではじまり、教職員と会員多数参加のもとに和やかな雰囲気の中で懇親会が行われ、一年一回の旧交を温めるよい機会となりました。今回は若い会員の参加も多く、お互いに語調を折りながら散会しました。来年はさらに盛会であることを祈っております。

むつあい会十周年記念講演会は昨年十月十二日（土）藤沢校舎において開催し、中田正一先生のアフリカ飢餓地獄と題して講演されました。引きつづき記念祝賀会が行われ、田村信雄、鈴木朗夫、鈴木勝春の諸氏に、むつあい会より感謝状と記念品を贈呈しました。久木田学部長はじめ来賓多数出席のもと、和やかで有意義な祝賀会を持つことができました。

農業科の近況

昨年の会報でも知らせしましたが、農業科は園芸コース、緑地造園コースのほか、新たに生活環境コース（女子のみ）が発足し、この三コースで運営されておりますが、生活環境コースは、六十三年度より生活環境科として独立することになり、目下文部省に申請中であります。

しがって六十三年以降、短大は農業科と生活環境科の二本立てで運営されることになります。

農業科では去る三月に一三三名の卒業生を社会に送り、四月には一九六名の新入生を迎えました。一年次二一六次名コース別学生の在籍者数は表1に示しました。園芸コース＝一六六名（四四％）、緑地造園コース＝一三三名（三三％）、生活環境コース＝八九名（二四％）となっており、園芸コース志望が これまで同様多く、各コースに別れて勉学に励んでおります。

新入生の歓迎を兼ねて、恒例になっております軽井沢研修旅行、今年は四月十六～十八日の二泊三日の日程で実施しました。この研修には二六五名（一年次男子一三〇名、女子六四名、二年次男子四六名、女子二五名）の学生と全教員が参加して行われ、一日目は新入生に対し、学生生活全般についてのオリエンテーションを行い、翌日は親睦を兼ねて班別対抗のオリエンテーリング、最終日は各班別の自由研究として軽井沢の自然を満喫し、英気を養うとともに親睦を深めました。三日間とも晴天に恵まれ、新入生にとっては共同生活を通して協調性と自主性を養う貴重な体験ともなり、有意義で快適な研修旅行を無事終了することができました。

農業科の教員の移動についてお知らせします。これまで農業科長として活躍になりました植田一郎教授（造園学）は三月で退任され、その後任として四月より佐藤昌介教授（生物学）が科長に就任しました。四月より農業科の教職員も教授九名、助教授一名、専任講師七名、副手一名合計十九名に増員され、学生の教育が一層充実することになりました。また斎藤忠雄（農業園芸学）、飯塚　統（土壌学）の両助教授が教授に昇格され、両教授の今後のご活躍を祈念します。なお斎藤忠雄教授は短大の第四期の卒業生でもあり、校友の期待にこたえたいと思っております。

また、新任の教員として生活環境コースに鈴木たね子教授（食品栄養学）、飯尾　潤助教授（基礎デザイン論）、教養課程の専任として佐武武雄教授（社会学）、小柏仁級教授（哲学）、坂本祐子専任講師（英語）が着任されました。

新任の先生方も親しみを持って学生の教育指導に当っております。

卒業生の就職と進路の状況

短大農業科の最近の卒業生の動向を表2に示しました。過去六年間の平均では進学する者四二％、農業技師二四％、公務員二％、その他二二％となっており、学部に進学する者が最も多くなっていますが、農業自営者、農業団体、公務員、会社関係の一部を占めるとともに年々農業関連産業に就職しているとなりあります。今年からも学生も多くなり、卒業生の就職に当っては校友諸氏のご協力をぜひともお願いいたします。

表1 短大農業科コース別学生数

年次	園芸コース (男子)	園芸コース (女子)	緑地造園コース (男子)	緑地造園コース (女子)	生活環境コース (男子)	生活環境コース (女子)	合計
1年次	74	30	59	3	−	40	196
2年次	63	9	57	4	−	49	182
計	137	29	116	7	−	89	
合計	166		123		89		378
(%)	44		33		24		

表2 就職進路状況（55～60年）

年度	卒業者数	進学	農業自営	農業団体	会社	公務員	その他
55	127	64	26	6	21	2	10
56	98	55	19	0	12	1	11
57	136	63	46	0	16	4	7
58	121	50	48	2	16	1	4
59	130	56	43	4	12	3	12
60	133	48	24	9	26	3	26
計	745	316	206	21	103	11	90
(%)		43	28	3	14	2	12

事務局から

むつあい会終身会費の納入について協力下さい。むつあい会では会員の親睦のために会員名簿及び会報を発行しておりますが、これには多額の経費を必要とし、会の運営上諸般の情勢から五十九年三月卒業生より終身会費を壱万円に増額させていただきました。また以前卒業の方は壱万円、五十八年以前の方は五千円は、左記口座に振り込みください。

郵行口座　三菱銀行藤沢支店
二五七一四三九三八一　日本大学短期大学部農業科校友会代表　斎藤忠雄。または郵便振替口座　横浜　〇一七七〇四九　藤沢市亀井野一八六六　日本大学農獣医学部藤沢校舎むつあい会あてお願いします。

最後に校友各位のご健康と活躍をお祈りいたします。

（斎藤忠雄）

盛り沢山な行事を展開

大阪支部　他の学部からも注目される

日本大学大阪校友会は毎月第三木曜日に「三水会」という名の会合をもち、それを基礎として校友会の発展をはかっているが、大阪校友会を構成する各学部の中でも農獣医学部の活動はとりわけ目覚ましく、他の学部からも注目されているところである。しかしながら、こうなった背景には、事務局担当の諸氏をはじめ、一部の熱心な人達の機能的な努力があったことを見のがすべきではなかろう。

農獣医学部校友会では、会員の親睦と会の発展をはかるため、会員名簿の作成と、青年部の結成による活動の活性化であった。会員名簿も田村事務局長らの努力あり、昭和五十三年十月に百二十名の出席者で第一回総会が開催されました。それからもう九年になろうとしています。昭和五十六年から藤沢校舎で四学科・一部となります。昭和六十二年度創立十年になります。設置一回第一回を記念し、十六年から藤沢校舎で四学科・一部となります。設置一回第一回を記念し、それは昭和六十一年度の総会を迎えようとしており、事務局では来賓への招待、校友諸氏への案内状の発送等を大忙しの真最中です。

思いおこせば、昭和五十二年ごろ、神奈川県支部の総会に出席している何人かの農獣医学部の卒業生がいる、何人かの農獣医学部の卒業生がいる、何人かの農獣医学部の卒業生の中に部会を作って、より多くの校友に集まって頂くチャンスを作ろうではないかと

昭和六十年度県支部総会を昨年十一月十六日、久木田学部長、佐藤校友会長、石井事務局長等のご臨席をいただき、山梨県石和町で開催したのが昨日のことのような気がしますが、もう昭和六十一年度会報発刊の連続、一年の歩みが大変早く感じるのも何かと忙しいからでしょうか。昨年の総会は間際になり、獣医学科校友の主員が不参加となり残念でしたが、今後の県支部総会には多加されるよう期待しています。昨年の県支部総会は約三十名の校友と小人数ではありましたが盛会で、我が学部がいま、校友会会報の原稿を書きながら、秋田県校友会設立のころを思い浮かべ、あれから早や一年有余の歳月が過ぎ、あっという間の歳月の流れの早さを感じているとと

東北の夏も、東北発地をかけめぐった夏の祭、お盆も過ぎると、時折、残暑を感じながらも、吹く風が秋の香りを運ぶようになり、しのぎやすい時期となり、また、活発に活動出来る時期となってまいりました。校友の皆様は、ますますお元気でご活躍のこと存じています。

いま、校友会会報の原稿を書きながら、秋田県校友会設立のころを思い浮かべ、あれから早や一年有余の歳月が過ぎ、あっという間の歳月の流れの早さを感じているとこと

活躍の分野は広範多岐

秋田県支部　夢と希望に燃えて努力中

ことを感じあった各位は、その後一層の親睦会の中で、各分野で活動しております。したがって、まことに乱れ限りであります。

農獣医学部の校友であるが、活動の分野は、ひとり農業の分野だけでなく広範多岐にわたっております。それぞれの場で苦労されております。それも、皆さん一様に夢と希望のもとで未来を展望し、発展ある二十一世紀への足がかりをつかもうとして努力を続けております。大いなる期待をもたれているものと自負しているところです。

校友会設立の際に、再び相見えさらに一層深交し、校友の輪を広げ、夢と希望を語り合うことを決定しているとともに、近く役員会等開催し、開催の準備をしようと考えているところです。

校友各位には、公私多事多繁の合わせの上で多くのご参加をお願いするとともに、各位の各所における飛躍のあとを見届けるため未来の発展を期したいと存じます。

（佐藤鉄太郎）

民間での活躍が主流に

山梨県支部　役立つ同志校友の交流

短大の授業が行われることになりまして、日本大学校友会神奈川県支部での農獣医部会の存在意義がますます強くなってきました。

最近急速に躍進を続けているつのエネルギーを是止めていたかつての在山梨県校友の活動は地方公務員、教員、農協等いわゆる官または官に近い方面での活動が主流だったのですが、最近は民間の所属に乗ったとでも申しましょうか、民間での活躍がたんだん主流になって来た感がします。

民間関係ご一口にいっても食品会社、青果市場、自動車関係等のオ―ソドックスの分野から食品販売、飲食業、不動産業、建材関係、さらには自動車関係と、かなり幅広いお分野での活動が続けられていますが、ここ数年来、県内農業の状況は昨年と異なり、今年は主産物なる果樹、野菜ともに豊作、その方面に関係する校友が多いものですから、例えば長野県訪問の際、ますます意欲的に前進をして頂くことを願わずにはいられません。

話をかえ、県内農業の状況は昨年と異なり、今年は主産物なる果樹、野菜ともに豊作、その方面に関係する校友が多いものですから、例えば長野県訪問の際、ますます意欲的に前進をして頂くことを願わずにはいられません。

新築の大講堂兼体育館はじめとして、この十年間に六名校が大変親を活躍つつある状況を観賞

日本大学校友会神奈川県支部
農獣医部会総会・懇親会
一日時　十月十一日（土）
総会　十七時より
懇親会十八時より
一、会場　横浜中華街　華正楼本館電話〇四五―六八一―二九一八
一、会費　会八〇〇〇円
会長　佐々木弘康（農23）
副会長　鈴木機司（農化25）
〃　福川　光二（水27）
〃　中嶋　平三（水29）
〃　秋元　美治（畜34）
事務局長宮崎利男（短農32）
（佐々木弘康）

農獣医学部の総会

10月11日

短大の授業が行われることになりまして、日本大学校友会神奈川県支部での農獣医部会の存在意義がますます強くなってきました。

最近急速に躍進を続けているつのエネルギーを是止めていたかつての在山梨県校友の活動は地方公務員、教員、農協等いわゆる官または官に近い方面での活動が主流だったのですが、最近は民間の所属に乗ったとでも申しましょうか、民間での活躍がたんだん主流になって来た感がします。

このことは前部長のいわゆる官業から始った経済活動が、しだいに本来の民間活動に発展推移して行ったそれを思わせます。

校友会設立のときの懇親で、何年ぶりかに親めた旧交、日ごろの顔を合わせたが初めて校友である官または官に近い方面での活動の分野は、ひとり農業の分野だけでなく広範多岐にわたっております。それぞれの場で苦労されております。それも、皆さん一様に夢と希望のもとで未来を展望し、発展ある二十一世紀への足がかりをつかもうとして努力を続けております。大いなる期待をもたれているものと自負しているところです。

校友会設立の際に、再び相見えさらに一層深交し、校友の輪を広げ、夢と希望を語り合うことを決定しているとともに、近く役員会等開催し、開催の準備をしようと考えているところです。

校友各位には、公私多事多繁の合わせの上で多くのご参加をお願いするとともに、各位の各所における飛躍のあとを見届けるため未来の発展を期したいと存じます。

（小沢　寛）

日本大学校友会神奈川県支部農獣医部会の総会

10月11日

短大の授業が行われることになりまして、日本大学校友会神奈川県支部での農獣医部会の存在意義がますます強くなってきました。

最近急速に躍進を続けているつのエネルギーを是止めていたかつての在山梨県校友の活動は地方公務員、教員、農協等いわゆる官または官に近い方面での活動が主流だったのですが、最近は民間の所属に乗ったとでも申しましょうか、民間での活躍がたんだん主流になって来た感がします。

このことは前部長のいわゆる官業から始った経済活動が、しだいに本来の民間活動に発展推移して行ったそれを思わせます。

校友会設立のときの懇親で、何年ぶりかに親めた旧交、日ごろの顔を合わせたが初めて校友である官または官に近い方面での活動の分野は、ひとり農業の分野だけでなく広範多岐にわたっております。それぞれの場で苦労されております。それも、皆さん一様に夢と希望のもとで未来を展望し、発展ある二十一世紀への足がかりをつかもうとして努力を続けております。大いなる期待をもたれているものと自負しているところです。

校友会設立の際に、再び相見えさらに一層深交し、校友の輪を広げ、夢と希望を語り合うことを決定しているとともに、近く役員会等開催し、開催の準備をしようと考えているところです。

校友各位には、公私多事多繁の合わせの上で多くのご参加をお願いするとともに、各位の各所における飛躍のあとを見届けるため未来の発展を期したいと存じます。

（佐藤鉄太郎）

他の学部からも注目される

大阪支部

日本大学大阪校友会は毎月第三木曜日に「三水会」という名の会合をもち、それを基礎として校友会の発展をはかっているが、大阪校友会を構成する各学部の中でも農獣医学部の活動はとりわけ目覚ましく、他の学部からも注目されているところである。しかしながら、こうなった背景には、事務局担当の諸氏をはじめ、一部の熱心な人達の機能的な努力があったことを見のがすべきではなかろう。

農獣医学部校友会では、会員の親睦と会の発展をはかるため、会員名簿の作成と、青年部の結成による活動の活性化であった。会員名簿も田村事務局長らの努力あり、昭和五十三年十月に百二十名の出席者で第一回総会が開催されました。それからもう九年になろうとしています。昭和五十六年から藤沢校舎で四学科・一部となります。昭和六十二年度創立十年になります。設置一回第一回を記念し、それは昭和六十一年度の総会を迎えようとしており、事務局では来賓への招待、校友諸氏への案内状の発送等を大忙しの真最中です。

思いおこせば、昭和五十二年ごろ、神奈川県支部の総会に出席している何人かの農獣医学部の卒業生がいる、何人かの農獣医学部の卒業生の中に部会を作って、より多くの校友に集まって頂くチャンスを作ろうではないかと

昭和六十年度県支部総会を昨年十一月十六日、久木田学部長、佐藤校友会長、石井事務局長等のご臨席をいただき、山梨県石和町で開催したのが昨日のことのような気がしますが、もう昭和六十一年度会報発刊の連続、一年の歩みが大変早く感じるのも何かと忙しいからでしょうか。昨年の総会は間際になり、獣医学科校友の主員が不参加となり残念でしたが、今後の県支部総会には多加されるよう期待しています。昨年の県支部総会は約三十名の校友と小人数ではありましたが盛会で、我が学部が

東北の夏も、東北発地をかけめぐった夏の祭、お盆も過ぎると、時折、残暑を感じながらも、吹く風が秋の香りを運ぶようになり、しのぎやすい時期となり、また、活発に活動出来る時期となってまいりました。校友の皆様は、ますますお元気でご活躍のこと存じています。

いま、校友会会報の原稿を書きながら、秋田県校友会設立のころを思い浮かべ、あれから早や一年有余の歳月が過ぎ、あっという間の歳月の流れの早さを感じているとこと

活躍の分野は広範多岐

秋田県支部　夢と希望に燃えて努力中

ことを感じあった各位は、その後一層の親睦会の中で、各分野で活動しております。したがって、まことに乱れ限りであります。

農獣医学部の校友であるが、活動の分野は、ひとり農業の分野だけでなく広範多岐にわたっております。それぞれの場で苦労されております。それも、皆さん一様に夢と希望のもとで未来を展望し、発展ある二十一世紀への足がかりをつかもうとして努力を続けております。大いなる期待をもたれているものと自負しているところです。

校友会設立の際に、再び相見えさらに一層深交し、校友の輪を広げ、夢と希望を語り合うことを決定しているとともに、近く役員会等開催し、開催の準備をしようと考えているところです。

校友各位には、公私多事多繁の合わせの上で多くのご参加をお願いするとともに、各位の各所における飛躍のあとを見届けるため未来の発展を期したいと存じます。

（佐藤鉄太郎）

役立つ同志校友の交流

山梨県支部

日本大学校友会神奈川県支部
農獣医部会総会・懇親会
一日時　十月十一日（土）
総会　十七時より
懇親会十八時より
一、会場　横浜中華街　華正楼本館電話〇四五―六八一―二九一八
一、会費　会八〇〇〇円
会長　佐々木弘康（農23）
副会長　鈴木機司（農化25）
〃　福川　光二（水27）
〃　中嶋　平三（水29）
〃　秋元　美治（畜34）
事務局長宮崎利男（短農32）
（佐々木弘康）

盛り沢山な行事を展開

大阪支部

日本大学大阪校友会は毎月第三木曜日に「三水会」という名の会合をもち、それを基礎として校友会の発展をはかっているが、大阪校友会を構成する各学部の中でも農獣医学部の活動はとりわけ目覚ましく、他の学部からも注目されているところである。最近、会の本年度の総会は盛り最中にもかかわらず、献身的な努力により、八月十日に開催し昭和六十一年度総会の日に出席者に手渡すことができた。

農獣医学部校友会は、会員名簿の作成と、青年部の結成による活動の活性化であった。会員名簿も田村事務局長らの努力あり、昭和五十三年十月に百二十名の出席者で第一回総会が開催されました。それからもう九年になろうとしています。昭和五十六年から藤沢校舎で四学科・一部となります。昭和六十二年度創立十年になります。設置一回第一回を記念し、それは昭和六十一年度の総会を迎えようとしており、事務局では来賓への招待、校友諸氏への案内状の発送等を大忙しの真最中です。

思いおこせば、昭和五十二年ごろ、神奈川県支部の総会に出席している何人かの農獣医学部の卒業生がいる、何人かの農獣医学部の卒業生の中に部会を作って、より多くの校友に集まって頂くチャンスを作ろうではないかと

昭和六十年度県支部総会を昨年十一月十六日、久木田学部長、佐藤校友会長、石井事務局長等のご臨席をいただき、山梨県石和町で開催したのが昨日のことのような気がしますが、もう昭和六十一年度会報発刊の連続、一年の歩みが大変早く感じるのも何かと忙しいからでしょうか。昨年の総会は間際になり、獣医学科校友の主員が不参加となり残念でしたが、今後の県支部総会には多加されるよう期待しています。昨年の県支部総会は約三十名の校友と小人数ではありましたが盛会で、我が学部が

東北の夏も、東北発地をかけめぐった夏の祭、お盆も過ぎると、時折、残暑を感じながらも、吹く風が秋の香りを運ぶようになり、しのぎやすい時期となり、また、活発に活動出来る時期となってまいりました。校友の皆様は、ますますお元気でご活躍のこと存じています。

いま、校友会会報の原稿を書きながら、秋田県校友会設立のころを思い浮かべ、あれから早や一年有余の歳月が過ぎ、あっという間の歳月の流れの早さを感じているとこと

民間での活躍が主流に

山梨県支部

日本大学校友会神奈川県支部
農獣医部会総会・懇親会
一日時　十月十一日（土）
総会　十七時より
懇親会十八時より
一、会場　横浜中華街　華正楼本館電話〇四五―六八一―二九一八
一、会費　会八〇〇〇円
会長　佐々木弘康（農23）
副会長　鈴木機司（農化25）
〃　福川　光二（水27）
〃　中嶋　平三（水29）
〃　秋元　美治（畜34）
事務局長宮崎利男（短農32）
（佐々木弘康）